

4/6-12#42 永遠の王であるキリストが来て地を所有することと神の奥義が完成されること:

1. 啓示録11:15から18と12:10が示していることは、私たちがキリストを永遠の王として経験し享受することができるということです。啓11:15 第七の御使いがラッパを吹いた。すると、天に大声があつて言った、「世の王国は、私たちの主と彼のキリストの王国となった。彼は永遠にわたって王として支配される」。16 すると、神の御前で自分の座に着いている二十四人の長老たちは、ひれ伏して、神を礼拝し、17 言った、「今おられ、昔おられた主なる神、全能者よ、あなたに感謝します。あなたはご自身の大いなる力を用いて、王として支配されたからです。18 諸国民は怒り、あなたの激怒が臨みました。死人が裁かれ、預言者であるあなたの奴隷たちと聖徒たちと御名を畏れる者たちとに、小さな者にも大きな者にも褒賞を与え、地を破壊する者たちを滅ぼす時が来ました」。12:10 今、私たちの神の救いと力と王国と、彼のキリストの権威とが来た。私たちの兄弟たちを訴える者、昼も夜も私たちの神の御前に彼らを訴える者が、投げ落とされたからである。A「世の王国は、私たちの主と彼のキリストの王国となった。彼は永遠にわたって王として支配される」(啓11:15 後半): 1 第七のラッパが吹かれる時、大患難が終わるだけでなく、この時代も終結し、神の奥義は完成されます。そして別の時代、王国時代、千年王国が始まります。2 キリストが再来して、諸国民を裁いた後、この世の王国はキリストの王国となります。3 ここで主が永遠にわたって王として支配するのは、主が千年王国と新天新地において、永遠にわたって王として支配することです。B「エホバよ、あなたは永遠にいまし、あなたの御座は代々に至ります」(哀5:19): 1 神の永遠の存在と彼の御座は、彼の慈愛とあわれみと信実より高いのです。哀3:22-23 私たちが滅ぼされないのは、エホバの慈愛である。まことに、彼のあわれみは尽きることがないからだ。それらは朝ごとに新しい。「あなたの信実は偉大です」。2 神の慈愛とあわれみは変動することがあり得ますが、神のパーソンと彼の統治は永遠に変わりません。3 新エルサレムで、神は彼のパーソンと統治において完全に明らかにされます。彼のパーソンは永遠の王であり、彼の統治は彼の永遠の揺り動かされない王国です。この両者は、神が彼の民を対処することでの揺り動かされない土台です。II. 啓示録10:1から7には、キリストが来て地を所有するという明確なビジョンがあります: 啓10:1 また私は、もうひとりの力強い御使いが雲

に包まれて、天から下って来るのを見た。彼の頭の上には虹があり、彼の顔は太陽のようであり、彼の足は火の柱のようであった。2 彼の手には、小さな開かれた巻物があった。彼は右足を海の上に、左足を陸の上に置いた。3 そして獅子がほえるように大声で叫んだ。彼が叫んだ時、七つの雷がそれぞれの声を発した。4 七つの雷が語った時、私は書き記そうとした。すると天からの声が、こう言うのを聞いた、「七つの雷が語った事を封じなさい。それらを書き記してはならない」。5 私が見た海と陸の上に立っている御使いは、右手を天に挙げ、6 永遠にわたって生きておられる方、天とその中の物、地とその中の物、海とその中の物を創造された方によって誓った、「もはや遅れることはない。7 しかし、第七の御使いが声を発する日、彼がラッパを吹こうとしている時に、神の奥義は完成される。神が彼の奴隷である預言者たちに、福音を宣べ伝えたとおりでである」。4:3 座している方は、碧玉や赤めのうのようであり、また御座の周囲には、緑玉のように見える虹があった。Aこの章においてキリストは、「もうひとりの力強い御使い」であり、それは、7:2、8:3、18:1のもうひとりの御使いと同じようにです。Bヨハネは、もうひとりの御使いが「天から下って来る」のを見ました: 1 キリストは今や天から下って来つつあります。2 このビジョンは、キリストが依然として地に来る途上であることを暗示しています。Cキリストは「雲に包まれて」います(10:1b): 1 まだ彼は、14:14、マタイ24:30、26:64節のように「雲の上に(雲に乗って)」いるのではありません。2 「雲の上に」いることは、公に来ることであり、「雲に包まれて」いることは、ひそかに来ることです。3 キリストは公にではなく、ひそかに来つつあります。ついには、啓示録1:7とマタイ24:30に述べられているように、キリストは地のすべての部族によって見られます。4 啓示録10章の時でさえ、キリストが来ることは依然としてひそかなものです。5 彼は14章まで雲に包まれています。14章のとき、彼は雲の上に座し、そして彼の来ることは公になります。6 この事によって私たちが見ることができるのは、キリストが大患難の前に来るという一般的な教えが不正確であるということです。D「彼の頭の上には虹があり」(10:1c): 1 この虹が示していることは、キリストが地を裁く時、来て地を所有する時、地に関して神がノアと結んだ契約をキリストが守るということです。2 それはまた、キリストが、その周囲に虹のある御座に座している神にしたがって裁きを執行する方であることを示しています。3 啓示録は、神が地とすべての住民を裁くことを

啓示しています。**4**神の御座の周囲の虹が表徴していることは、神が契約をする神、信実な神であって、地に対する裁きを執行する時に彼の契約を守るといことです。**5**彼は再び洪水をもって人類を裁くことをせず、またすべての人類を滅ぼすこともせず、人類の一部分を保って、彼の栄光のために新しい地の諸国民とならせます。**6**「彼の顔は太陽のようであり、彼の足は火の柱のようであった」(10:1d)：**1**キリストは、地上の民に公に来るのが間近な時、太陽のようになるのであって、明けの明星のようになるのではありません。明けの明星は、夜明け前の最も暗い時に、主を愛し彼を待ち望む者たちに現れます。**2**1節の火は、神の聖を表徴します。神の聖にしたがって、キリストは彼の裁きを地に執行します。**6**「彼は右足を海の上に、左足を陸の上に置いた」(啓 10:2後半)：**1**キリストが足を海の上と陸の上に置くことは、それらを踏むことです。それらを踏むことは、それらを所有することです。**2**これは、キリストが下って来て地を所有しようとしていることを示しています。**3**彼だけが、神のエコノミーの巻物を開くのにふさわしく、彼だけが、地を所有する資格があります。**6**「[彼は]獅子がほえるように大声で叫んだ」(啓 10:3 前半)：**1**獅子のほえる声が、王の激怒にたとえられています。**2**これは、キリストが地の王として、激怒を引き起こすことを示しています。**III. 「神の奥義は完成される」**(啓 10:7 前半)：**A**アダムからモーセまでの時代、またモーセからキリストまでの時代では、あらゆることは明らかにされ、現されて、何の奥義もありませんでした。**B**千年王国の時代と新天新地では、あらゆることは明らかにされ、もはや奥義はありません。**C**キリストから千年王国までの時代、すなわち召会時代、恵みの時代では、あらゆることは奥義です：**1**奥義の時代の開始であるキリストの肉体と成ることは、奥義です：**1**テモテ3:16 ...偉大なのは敬虔の奥義です。この方は肉体において現され、霊において義とされ、御使いたちに見られ、諸国民の間に宣べ伝えられ、世の人の中で信じられ、栄光のうちに上げられた。**a**キリストの肉体と成ることを通して、無限の神は有限な人の中へともたらされました。**b**子なる神だけでなく、神全体が肉体と成りました。このゆえに、肉体と成ったキリストは、肉体において現された神全体です。**2**キリストは神の奥義です：**コロサイ 2:2** それは、彼らの心が慰められ、彼らが愛の中で結び合わされ、理解力から来る全き確信のあらゆる豊富へと至るため、すなわち、神の奥義なるキリストを知る全き知識へと至るためです。

a神は奥義です。そしてキリストは、神を表現する神の具体化として、神の奥義です。**b**キリストは神の奥義として、神の具体化、定義、説明です。神が行なおうとするすべては、キリストと関係があります。**c**キリストの中には、神たる方の全豊満が肉体のかたちをもって住んでいます。すなわち、三一の神の豊満が、肉体のかたちにおいてキリストの中に住んでいます。**3**召会はキリストの奥義です：**エペソ3:4** あなたがたがそれを読むなら、キリストの奥義に関する私の理解を、知ることができます。**a**キリストは奥義です。そして召会は、キリストを表現するキリストのからだとして、キリストの奥義です。**b**この奥義は神のエコノミーです。神のエコノミーは、神の具体化であるキリストを、神の選ばれた民の中へと分与して、からだを生み出し、キリストにおける神の具体化の増し加わりとならせ、神に団体的な表現を得させます。**c**キリストと召会一つ霊であり、偉大な奥義です。**5:32** この奥義は偉大です。実は、私はキリストと召会について言っているのです。**4**天の王国、福音、キリストの内住、奥義の時代の終わりとしての、聖徒たちの来たるべき復活と変貌は、すべて奥義です。**5**第七のラッパが吹き鳴らされる時に、すべてこれらの奥義は全うされます。ですから、神の奥義は完成されます。**証**私は39歳で救われた時、これまで自分がサタンの王国の領域で生きていた事を知りました。他人との比較、競争、駆け引きは成長のための健全な行動であり、嘘、誤魔化し、人と距離をおいて本音で話さないことも人と軋轢(あつれき)を生まない為には必要な事であり、個人主義も当たり前であるというサタンの領域の考えで生きていました。しかし、自分がサタンの領域で生きていた事を強く照らされ、考え方だけでなく生活が変化する様になったきっかけは、魚崎集会所で兄弟姉妹と実際に共に生活するようになったことです。兄弟姉妹との交わりを通してサタン、この世、自己が暴露され、清められました。更に神の言葉を兄弟姉妹の助けを得て享受し、思いを霊に付けることを学び、命の成長の喜びを知りました。ルカ17:20-21「神の王国は見える様では来ない。また人々が、『見よ、ここだ！』『あそこだ！』と言うものでもない。なぜなら、見よ、神の王国は、あなたがたの間にあるからだ」。私もかつて噂を聞いてあちこちに外側の救いを求めていましたが、召会の中の兄弟姉妹との生活こそ救いであり、召会の中に救い主キリストが王として住んでおられ、主が神の領域、王国であることを経験しています。ハレルヤ!